

令和6年度

第1回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：令和6年11月26日（火）午後2時～3時30分

場 所：鳥取市役所7階議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、田中節哉委員、佐藤順委員、谷田一富委員、
村尾徹委員、秋山光行委員、甲田紫乃委員、谷口透委員、
山本武志委員、綱本信治委員、平井和憲委員、中野ゆかり委員、
坂本朋子委員

欠席 田村正弘委員、川夏博志委員、澤田知之委員、小坂祐司委員、
太田章太郎委員、中村曉委員、西垣日出樹委員

オブザーバー 鳥取県地域社会振興部東部地域振興事務所 藤田美奈子 所長
兵庫県但馬県民局総務企画室 遠地良逸 室長（オンライン）

事務局 鳥取市企画推進部政策企画課長 上田貴洋、同課係長 山中郁子、
同課主任 岡本茉莉絵
岩美町企画財政課長 大西正彦、若桜町企画政策課長 谷本 剛、
智頭町企画課長 迎山恵一、香美町企画課長 田中徳人、
新温泉町企画課長 水田賢治

説明者 鳥取市市民生活部地域振興課長 山名常裕
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊大輔
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課長 平井宏和
鳥取市農林水産部農政企画課課長 増田泰則
鳥取市都市整備部交通政策課長 宮谷卓志

1 開会

2 議事

（1）第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業の取組状況について

（令和5年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1、資料1-1

（資料1、資料1-1について事務局説明）

○主な意見・質問等

＜委員＞

実績や進捗率の数字だけではなく、その結果を踏まえて分析、評価などを行い総括の報告が必要だと考える。数字だけの報告であれば、事前に配布された資料を見ればわかることであり、特段意味がないような気がする。資料1-1に記載されている各項目の成果と課題についても、各

事業の担当課が分析して書いているかと思うが、それを基に事務局が総括としてどのように考え評価しているといったような部分が必要なのではと思う。

＜事務局＞

ご意見ありがとうございます。

令和5年度の取組に係る資料について、分析などが不足しているのではないかというご意見だったかと思います。まず、資料1で事業全体の進捗、取り組み状況をこちらでご覧いただきまして、特に重要なKPIもこちらに記載させていただいております。資料1-1で81事業それぞれの取組内容などの記載をご覧いただきながら、これらの事業を進めることで麒麟のまち圏域の振興発展に取り組みたいと考えております。それぞれの事業の取組などに対して、委員の皆さまからのご意見をいただき、改善に取り組みたいというような気持ちで資料をまとめさせていただいております。

（2）第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業の進捗状況について

（令和6年度9月末時点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2、資料2-1

（資料2、資料2-1について事務局説明）

○主な意見・質問等

＜委員＞

資料2-1の事業番号34、鳥取駅周辺再整備推進事業について、令和6年度9月末時点の実績なしという説明があったかと思うが、これは自治体の連携というか共有自体を事業にしている話か。事業としては、パブリックコメントなどで再整備基本計画の策定などを6月に行い、リデザイン会議や分科会のような形で各専門部会で検討を進めているような状況だと思うが、この事業の実績のカウントの仕方として事業は動いている中で内容についてご説明いただきたい。

＜事務局＞

こちらの実績に記載しておりますのは、KPI指標である研究検討会議の開催についてというところでございます。

研究検討会議の実施については、令和6年度上半期での開催がなかったため、実績なしという記載となっております。委員さんのおっしゃるように、再整備基本計画のパブリックコメントであったり、リデザイン会議であったり事業は進めておりますが、連携としましてはパブリックコメントなど圏域内の意見の募集や情報共有するといったようなことをしております。

＜委員＞

資料1-1の事業番号37、鳥取大学が実施する教育研究プロジェクト等の連携事業では、様々な地域課題に対し本学のいろいろなノウハウを提供させていただけたらということで関わらせていただいている。

資料1-1の事業番号13、農業IT化促進事業はドローンに着目しておられるようだが、スマート農業というどうしても大規模化の方向で進んでいる。規模を拡大すると高額化し、農業者の方々はなかなか手が出せないというような面もある。

現在、本学では小規模農家のIT化といった研究も行っているため、またいろいろな面で相談

をいただけたら協力できるのではないかと思います。

また、らっきょうの根切り、葉を切ったり根を切ったりするというような機械開発もやっている。また、芝の刈り取り、収集というような機械も開発しており、農家の方々の省力化、IT化に向けた研究を行っているのでご相談いただけたらと思う。

<委員>

資料1-1の事業番号20の事業実績に、テーマ別広域周遊商品等の造成の中の「山陰海岸ジオパーク周遊ルート造成」で食や温泉を活用した3つのモデルルート造成と書かれているが、これは作られただけなのか、それとも実際に商品として販売されたのか。販売された場合、3つのモデルルートの中で、参加者数の多寡など違いはあったか。

また、事業番号36に岩美むらなかキャンパスの話が書かれているが、成果と課題の部分で課題としてどういうものがあつたか教えていただけたらと思う。

<事務局：鳥取市観光・ジオパーク推進課長>

まず、「山陰海岸ジオパーク周遊ルート造成」の件でございます。基本的には海外のお客様へ商品として販売をしていくためのルートを作っております。山陰海岸ジオパークは、麒麟のまち圏域の鳥取市、岩美町、香美町、新温泉町だけではなく京都府や豊岡を含み、その中には3つのDMOがあり連携して、天橋立や城崎、麒麟のまち圏域などを拠点に宿泊していただくような広域のルートを作って販売しているところです。

主に海外の旅行会社に対し造成したルートを販売していますが、実績として私どもが聞いている限りでは、まだルートの周知ができていないということで数字として上がってはおりません。ただ、天橋立や城崎温泉に泊まれるルートへお客様の比重が高いという状況で、麒麟のまち圏域の周知をいかにしていくかが課題だと感じています。

今申し上げたようなルートを作っていくにあたりお客様のニーズを把握するため、ファムツアーというモデルルートを作って売る前に、実際に香港や台湾などの旅行会社様に来ていただき、作ったルートを2泊3日や3泊4日で体験いただいて、そこでいただいたニーズを商品へ反映させていくというような形で、お客様の意向を掴み進めてきたというような事業でございます。

<事務局：岩美町企画財政課長>

岩美町の大谷にある民家を利用し、むらなかキャンパスとして活用していただいております。課題と言いますか町の希望としまして、この施設を利用して、鳥取環境大学さんが研究された地域の課題やテーマなど、何か地域おこしの策がありましたら、もう少し町と関わっていただいて提案をしていただけたらありがたいなと思っておりますのでございます。

<委員>

資料2-1の事業番号73と事業番号79で、DX施策関係について、情報共有や検討事業ということで同様な事業が2つあり、11月に第1回の検討会が開催されるということになっているが、これはもうすでに開催をされたのか。

<事務局>

DX会議ですが、11月の終わりに実施をするということで聞いております。具体的な日時に

については、把握しておりません。申し訳ありません。

→ 令和6年度第1回麒麟のまち圏域DX検討会議 令和6年11月21日に開催いたしました。

<委員>

会議の議題まではわからないと思うが、今まで進めている観光DXの関係であるとか、或いは今年新たに鳥取市が進めている、SQプロジェクトの一環のデジタルで官民の生活支援サービスを一括して提供するという実証実験の事業について、担当部局は企画推進部だと思うが、そちらが実証実験をやっており、当社も通信事業という関係で、参画をさせていただいております。感想として、事業化するにはかなりハードルが高いなというような思いを持ってはいるが、その中で、事業の番外編としてオンライン診療をある地域の診療所と公民館を結んで実施したということがある。その中で、医師側も受診者側も非常に良い感触を持たれたということだった。このような事業は、事業化するにもそこまで費用はかからないし、仕組みとしても簡単なものだと思う。あとはどのように居宅まで薬を届けるかといったような仕組みを各自治体が整えれば、圏域全体で簡単に取り組んでいけるのではないかと思っている。

こういったDXを進める上においても、ぜひ1つの事業化みたいな形で議論を進めていき、突破口を開いていただけたらと思う。

<委員>

バードハットを利用したイベント等を考案していただいております、今後も是非、集客に結びつくようなイベントなどを繰り広げていただけたらなと思っている。

<委員>

事業にも記載されていた「バードハット」とは何か。

また、コナン空港の利用促進等、国際交流事業という部分で、最近東京便を利用した際、鳥取行の飛行機は全て満席であった。カニの時期ということが関係しているのかもしれない。今は外国人観光客が増えており、コナン空港にも何とか台湾便など国際便を本気になって取り組んでいただけたらと思う。

また、太陽光発電設備等共同購入事業は、新温泉町は17件申し込みがあったということだが、申し込みから発注にかかる時間的要素はどのようなスケジュールで募集をしているのか。

<事務局>

まず、「バードハット」でございますが、駅前の丸由百貨店（旧大丸）の前に大きな屋根がございますが、あちらをバードハットという愛称で呼んでいるというところでございます。

次に、太陽光発電設備等共同購入事業でございます。担当課から聞いた話ではありますが、現在、設置事業者が決まり、今後役場へ状況報告などを行われると聞いております。それと並行するように設置件数もかなりございますので、順次作業に入っていくのではないかと思います。令和6年度の事業の受付分としては、設置作業が年度を跨いだとしても作業は順次進めていくという流れになるかと思います。また、令和7年度は改めて募集し、令和6年度と同様のサイクルとな

るのではないかと考えております。

<委員>

成果と課題の記載について、事業ごとにただ羅列するのではなく、資料に示されている分野ごとでもいいので、論評のようなものがあつた方が委員方々にもわかりやすいのではないかと感じた。

<委員長>

事業実績の数字だけで委員に判断してもらうのではなく、成果や課題など全体をまとめたような資料にしていただけたらと思う。

<委員>

個別に進捗状況を追求していけばいいが、これだけの事業数を限られた時間と資料で表現するのは、事実上困難なんだろうと思う。ただ、個別の取り組みがやはり羅列されている状態なので、圏域全体の連携がどのように進んだのか、取り組んでいるのかという部分がわかりにくい。例えば重点事業や優先順位など、そういったものを政策づけるとか、メリハリがあればと思った。

<委員>

3点意見がある。1点目、KPIの設定の仕方ということについて課題感があるかなと考えているが、他の委員の皆さんがおっしゃられたので省略する。

2点目は、情報発信。3点目は、地域や多世代との交流。この2点が課題ではないかと全体を見させてもらって感じた。

おそらくコロナがきっかけで、地域活動が縮小し情報をどのように収集するのか大きく変わったと思う。自分の興味のある情報はアクセスしやすくなり、情報が自動的に入ってくるような仕組みにもなっている。しかし、自分に興味のない情報はそもそも自ら取りに行くことはしないし、自動的に入ってくることもないため、アクセスしにくくなっている。数多く事業をされているので、情報発信によって様々な方にいかに興味を持ってもらうかというところがすごく課題になってくるかなと考えている。

3点目、地域や多世代との交流。これまでは地域の文化祭や運動会、子供会などで地域の方とつながりがあり、例えばどういう仕事をされてるとか、どのような価値を持っているのかなど、何となく肌身で感じる部分があつたと思うが、コロナによる地域活動の縮小でそういった交流が少なくなっている。そのような中で、資料2-1の事業番号27「若者の地元定着促進事業」は高校の校外授業の一環として企業に出向き説明を聞くなど、そういう活動がすごく大事になってくるのではないかと考えている。

先日、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム「避難所運営ゲームHUG」を高校生が体験されたというニュースの中の学生インタビューで、今、匿名で他人を批判しやすい時代になってきているが、実際に体験することによって自分が運営する側の場合やそういう場所にいたときに自分は地域住民としてどのように振る舞うかを考えたという話をされていた。そういう部分の視点はすごく大事だなと思うし、地域との交流や多世代との交流を戦略的に組み立てていきこの事業がもっと上手く展開できたらいいなと思った。

<委員>

資料２－１の事業番号８、稚貝・稚魚放流事業に関して、放流する周辺のえさの状況に関係なくむやみに放流しているのではないかという意見があるようだが、どのように実施しているか。

資料２－１の事業番号６６、太陽光発電設備等共同購入事業について、ペロブスカイト太陽光発電、貼れる太陽光発電のような方法は研究などされているか。例えば、歩道などに貼れば非常に便利になると思うが。

<事務局>

稚貝・稚魚放流事業につきましては、所管課に確認し後程ご報告させていただければと思います。

太陽光発電についてですが、昨年度から、鳥取市環境大学や民間企業と一緒に脱炭素先行地域という取り組みを始めており、モデル的に若葉台と佐治町で取り組みを進めているところです。そこで使う太陽光の設備の１つとして、委員のおっしゃられているペロブスカイト太陽光発電など、そういったことも念頭に置きながら、手法をいろいろ検討しているというふうに聞いております。このようなご意見もあったということを所管課へ伝えさせていただきたいと思います。

→ (稚貝・稚魚放流事業について)

鳥取市では漁業協同組合が行う種苗放流等の経費に対し助成をしています。

事業実施において、例えばサザエ・アワビの稚貝放流等では、調査・研究機関である鳥取県栽培漁業センターの研究報告を参考に適切な時期に適切な場所で放流を行うように努めているところです。

<委員>

ご承知のとおり、石破内閣が発足しているがこれを好機ととらえ、精力的に要望活動というの
はされるべきだと思う。

<委員>

資料２－１、事業番号２３と２４の各地を周遊するバス事業について、進捗状況が昨年度も同様あまりよくない。今年度に関しては、両方とも２０％台となっている。この分析として、丁寧に回答していただいたが、この分析は利用者の声も聞きながら分析した方がより改善になっていくと考える。利用者に寄り添って分析することが必要ではないかと思う。

<オブザーバー：鳥取県>

全体に多岐にわたっているが分野などカテゴライズされていないため、委員の皆様の意見をくみ取るには、例えば分科的に分野を分けて話をする機会、或いは執行部側で部局別に総括し特にトピックとして言いたいことなどをまとめるなどした方が委員の皆様の意見も反映させやすいのではないかと思う。

<オブザーバー：兵庫県>

これだけ多くの事業をどういった成果を出すのか、なかなか成果が出にくい事業もあるかと

思う。広範囲での連携や課題に対しどう取り組むのかそれぞれ難しいところがあると思うが、このような会議を通じて進行管理、検討をしていくことが引き続き大事であると感じている。

<事務局：鳥取市観光・ジオパーク推進課長>

先ほどご意見いただきました資料2-1、事業番号23と24の周遊バスに関して少し補足させていただきます。

本事業では、利用者全ての声を聞けてはおりませんが、利用者様のご意見等を踏まえながら次年度のツアー行程の見直しなどを行っております。本ツアーは日帰りバスツアーとなっており、1市6町全てを巡るという形態ではなく、毎年ある程度のテーマを決めて今年であれば鳥取市と岩美町の海岸線を巡るコースや鳥取市と八頭町を巡るフルーツのコースなど利用者様のご意見を聞き見直しを図りながら実施しているところです。

令和6年度9月末時点のKPI進捗状況では20%台となっておりますが、10月・11月の事業が終わり50%ぐらいとなっております。達成率という点では課題の残る事業にはなっておりますので、今後も引き続き検証をして参りたいと思います。また、このようなツアー事業のニーズも、JRなど交通機関からも必要な事業だという声もいただいておりますので、事業主体とも研究をさせていただきたいと思っております。

4 その他

特になし

5 閉会